



福島原発  
事故から10年  
【3回連載①】

## 産地とともに向き合い続ける放射能対策 試行錯誤から一歩ずつ前へ。

今年3月11日で福島第一原発事故から10年となりますが、放射能の影響はこれから先も続きます。放射能の問題とは今後どう向き合えばいいか。今回より3回の連載で改めて考えます。1回目は産直産地の生産者に、試行錯誤の放射能対策の歩みと現状についてうかがいました。

### 震災時の利用が産地を支える力に

#### 梨の産直産地 ぶくしま梨ネット(福島県福島市)

「不安というよりも、当時は無我夢中でした」と話すのは、生産者の阿部修さんです。2011年に収穫した梨はパルシステムの放射能検査で「不検出」でしたが、リスクを可能な限り減らすため翌年の収穫に向けて対策に取り組むことを決めました。梨の樹皮に付着した放射能が果実に移行しないようにするには、新しい芽が出る春先までに樹皮を削ったり、高圧洗浄機で洗浄したりする必要があります。作業は2012年1月から、氷点下の寒さのなかで始まりました。

「パルシステムからは洗浄機や防護服の費用を補助してもらいました。あの年は雪が多くて、畑まで水を運ぶのが大変だったのを覚えています。なんでこんなこと……とも思いましたが、とにかくやるしかなかったんです」

一本一本の樹を洗浄する作業は想像以上の時間がかかり、終わったのは3月末のこと。その後も、ぶくしま梨ネットの梨は「不検出」の結果が続いています。それでも、事故直後は「福島県産」というだけで一般市場での価格が下落したと言います。「でも、組合員さんの利用は、事故直後に3割も増え、それからもたくさん利用していただいています。私たちの梨は、きちんと放射能検査を続けています。支えてくださる組合員さんに、これからも安心な梨をお届けしていきます」

### 原木しいたけを次世代に残すために

#### 原木栽培しいたけ産地 JAつくば市谷田部産直部会(茨城県つくば市)

生産者の飯泉厚彦さんは、この10年を振り返って「一時は廃業を考えたこともありました。二度と同じ経験はしたくないです」としみじみ話します。

原発事故後、飯泉さんたちは放射能を低減させるための試行錯誤を続けました。まず、雨や大気からの放射能汚染を防ぐため、原木の保管から栽培まで行うハウスを建設。原木の検査やロット管理はもちろん、専用に開発した機材による高圧洗浄も行いました。しかし、飯泉さんたち生産者は、原木の確保という難問にも直面しました。放射能汚染の影響で全国の原木供給量の約7割を占めていた福島県阿武隈地域の原木が出荷停止となり、近隣の原木産地も汚染されたからです。九州など全国各地から原木を調達するという前例のない取り組みを始めるしかありませんでした。

「ピーク時の半量しか出荷できない厳しい時期を経て、なんとか生産を続けられるかもしれないと思えたのは、事故後5年以上が経ってからです」

ただ、原木の不足と価格上昇は今も続き、東日本では廃業する生産者が増えているのが現状です。そのため飯泉さんは原木しいたけを次世代に残すための活動にも取り組んでいきたいと話します。「若い人が『原木しいたけを作りたい』と思えるような環境を整えていきたいと思っています。いつかまた、地元茨城の原木産地ものや、できることなら以前のように阿武隈地域の原木でしいたけを栽培したいですね」

### パルシステムと産直産地 ともに歩んだ10年

パルシステムは産直産地とともに、放射能低減に向けこの10年歩んできました。生産者は手探りの状態ながら、できうることに全力で取り組みました。生産者を支えたのは、応援カンパや継続的な利用、励ましのメッセージなど組合員のみなさんの志、産直のきずなでした。カンパ金は復興対策支援基金として低減の取り組みや生産を支え、組合員による利用が再起の原動力になった生産者もいます。産地の努力により、近年の放射能検出は限られた一部の食品となっています。



ぶくしま梨ネット(福島県)では原発事故の翌年1月から、高圧洗浄機を使ってすべての梨の樹を洗浄しました



生産者・阿部修さんと高圧洗浄機



「どん底から回復できたのは、組合員の利用や支えがあったから」と話す生産者の飯泉厚彦さん(右)と父・孝司さん

## 放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数)/2020年12月2日現在  
※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計: 1382(22) 不検出率: 98.4%

2019年度の検査数 総計3025(30) 不検出率99.0%

青果	330(3)	れんこん(3.5~7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	26(17)	生しいたけ(5.0~11Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	34(0)	2019年度に続き、12月2日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	30(1)	2020年産米の検査は27産地29検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。今後も順次、米の検査を行っていきます。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	28(0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、12月2日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	75(0)	2019年度に続き、12月2日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	37(0)	2019年度に続き、12月2日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	147(0)	2019年度に続き、12月2日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	675(1)	ほしいも(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



●週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。

●インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟ときめき

パルシステム  
問合せセンター

☎0120-868-014

月~金曜日:9時~20時  
土曜日:9時~17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲斐センター ☎0120-28-5891  
西桂センター ☎0120-32-1061  
一宮センター ☎0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ☎0120-60-5118  
渋川センター ☎0120-36-3315  
東毛センター ☎0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。